

令和3年度 徳島県自転車活用検討委員会

日時：令和4年3月24日（木）13:00～

場所：徳島グランヴィリオホテル1階
グランヴィリオホール

～ 議 事 概 要 ～

■議事（1）徳島県の自転車活用推進に係る取組状況について
（事務局）

【資料1、補足資料1】により説明
（近藤委員）

1点目は、県全体の他の計画との整合を考えた場合、DXやGXの観点からの取組方針がわかるようなまとめ方をして報告したほうがよいと思います。

2点目は、Tライン紙マップの更新についての要望があるのか、あるいはあまり活用されていないのであれば、状況を教えてください。

3点目は、市町村の自転車活用推進計画の策定支援について、目標は3市町村とありますが、県から市町村へ働きかけていくのか、それとも市町村から県に対して支援の要望が来ているのか、状況を教えてください。

4点目は、サイクルイベントについて、実際に活躍されているサイクリストがPRすると効果があると思いますが、どのような方が説明などをされているのか教えてください。

5点目は、パークアンドサイクルライドの状況について、国交省のデータが公表されていないとのことですが、結果を教えてください。

6点目は、大型店舗などでの普及啓発について、交通安全に関することなのか自転車に関することなのか、内容を教えてください。

（事務局）

DX、GXについて、特に自転車はGXに関係することであることから、その視点で取りまとめていきたいと考えています。

Tライン紙マップについては、常時、一定の要望があり、このたび増刷したところですが、電子マップと紙マップの両方に需要があると考えておりますので、どちらにも取り組んでいきたいと考えています。

市町村の自転車活用推進計画については、自転車施策に積極的に取り組んでいる特定の市町村に対して、県から働きかけていきたいと考えています。

サイクルアインランド四国などのイベントなどについては、県の職員が中心となってブースへの出展などを行っているところです。

パークアンドサイクルライドの県の取組としては、徳島東環状線の高架下で試験的に実施し、一定程度の需要は確認できましたが、来年度の実施方針についてはまだ決まっていない状況です。国においては国道11号の広島ランプ高架下の駐車場を活用したパークアンドサイクルライドを検討していると聞いております。また、店舗型として、フジグランやゆめタウンの駐車場を活用したパークアンドサイクルライドもあ

りますが、利用件数は少ないと聞いております。

普及啓発については、安全教育に関するものです。

(中西委員)

今年度の全国的なサイクルイベントは1回しかありませんでしたが、徳島県はサイクルキャビンを持っていき、県内の自転車ルートをすべて走ったことがあるような県の職員が来ておりましたので、すごくアピールできていたと思います。

自転車活用推進計画については、現在、徳島市と鳴門市しか策定していませんが、臨海部や四国八十八か所がある市町村に策定していただくと観光にも資すると考えています。特に、上勝町に働きかけていただきたいと思います。

また、1点質問として、大鳴門橋自転車道はいつ実現するのでしょうか。これはインバウンドにつながると考えていますが、時期がわからないと対策が進められません。国内外の観光需要を促進するためにも目標を教えてください。

Tラインマップについては、電子版の動画、よくできているなと思いました。紙マップについても、新しくなったら徳島新聞にもぜひ広報していただきたいと思います。

サイクルピットについては、JRさんに設置していただいたと今日初めて知りましたが、設置されている6駅の場所を教えてください。

また、こういったサイクルピットやTラインマップなどの情報は使う人に伝わらなければ意味がないと考えていますので、戦略的な広報を進めていく時期に来たのではないかと考えます。

次に、先日、徳島新聞に自転車指導啓発重点地区・路線が指定され、自転車のマナーアップのために重点的に指導を行っていきとありました。エシカル取組や燃料価格の高騰により自転車利用者が増えてきたことがきっかけとのことであり、徳島県においても、中学校や高校がある付近を指定したとのことです。しかし、学校周辺において自転車利用者が多いのは従前からのことであり、増えてきている場所は国道55号の旧道など、別の場所にあるので、この自転車活用検討委員会と一緒にあって自転車利用者の意見などを聞きながら指定したほうが効果的だったのではないかと考えますが、県警察のご意見などを伺えたらと思います。

(県警本部交通企画課)

平成28年に自転車条例ができた時に、各警察署で自転車の通行量が多いところで啓発活動、指導、警告、取締りなどの活動するため、重点地区として指定しているところです。毎年、見直すこととしており、柔軟に対応していくことも可能かと思えます。

(山中委員長)

自転車の事故は全国的には減っていますが、徳島県は減り方が低いので、もう少し頑張れば減らせる状態じゃないかなと思います。ルール違反だけ取り締まっても難しいので、左側通行や交差点の曲がり方とかそういった指導も必要だと思います。

(事務局)

大鳴門橋自動車については、これまで風洞試験などの検討を進めており、既存の大規模な長大橋の中に設置するものであることから、対岸の兵庫県や本州四国連絡高速道路株式会社と一緒に検討を進めており、走行の安全性や構造の検討も進めています。

全長約1.6km以上の長大橋であり、かつ風が強いところでの設置となりますので、十分に検討して行く必要があります。地元の皆様の盛り上がりも認識しておりますので、引き続き兵庫県と共に検討を進めていきたいと思っております。

また、Tラインルートの電子マップについても、非常にいいものとの意見をいただきましたので、しっかりと広報して行きたいと考えております。

それから、自転車活用推進計画の市町村への働きかけというところで、市町村の方から手を挙げていただくのが一番よいと思っておりますが、自転車の活用推進ということであれば、観光の視点も必要と思っておりますので、四国八十八箇所や海岸沿いの市町村へ県としても働きかけていきたいと思っております。

(スポーツ振興課)

サイクルピットの運用ですが、四国四県で各県6箇所ずつ整備しており、徳島県は阿波池田駅、穴吹駅、徳島駅、鳴門駅、日和佐駅、阿波海岸駅の6駅にアルミ製のサイクルラックを整備し、各駅に貸し出し用の工具を備え付けております。

(山中委員長)

自転車活用推進計画を他の市町村に拡大する上でのネックはなんでしょうか。市町村は躊躇しているのでしょうか。

(事務局)

市町村からは、計画づくりに人手を割けなかったり、住民の方々が車社会へ依存しており、自転車のニーズが少ないという意見があります。

(山中委員長)

どこの部署が中心となって計画づくりをするのかということも問題となっているようです。自転車ネットワーク計画の策定は道路部門で行うと決まっていたましたが、活用推進計画ではツーリズム利用となるので担当は誰か、となるので、観光のネットワークづくりとしてやっていただくのがよいのではないのでしょうか。

サイクルキャビンの評判はどうでしたか。

(スポーツ振興課)

サイクルキャビンですが、2日間、かなりの方に見ていただきましたが、中を見た瞬間の第一声が「すごい」というのがほとんどでした。大阪駅、三ノ宮駅からいつ出るの、徳島に行きますよ、といった声が多くありました。コロナが収まれば、海部観光も大阪駅とか三ノ宮駅にあたりを出発して徳島に来る一日のツアーを休日に1便走らせるようなツアーを今、検討しているところです。

(山中委員長)

定期便をするとしたら、それなりの金額を取るのでしょうか。実際、1日20万円で借りられるんですけど、大阪往復で19台載せて実施できるということでしょうか。

(スポーツ振興課)

海部観光独自のツアーとしてしまなみ往復を、一人15,000円で募集していますので、そのぐらいの金額であれば、多分採算が取れるだろうと思っています。

(山本委員)

自転車の活用につきましては、自転車そのものを目的として楽しむという使いかたと、移動手段としての使いかたがあらうかと思っております。私の方からは、移動手段とし

での利用について質問したいと思います。現在は、コロナ禍の中で自転車の利用が高まっているとともに、自動車移動への過度な依存も高まっているのではないかなと感じています。特に3～4 kmぐらいの短距離の通勤などで、これまで自転車で移動したものを自動車で移動するといったような事象が見受けられまして、自動車移動の3～4割ぐらいがそういった短距離の移動ということです。そこで自転車への乗り換えが非常に環境面でいいのではないかなと思っております。その関係で、エコスタイル、自転車への乗り換え促進等の呼びかけや企業への働きかけなど、この場でご紹介できるようなことがあれば、お願いします。

(事務局)

パーク・アンド・サイクルライドを国も県も検討しているところです。長距離の自転車移動はなかなか難しいと思いますが、5 km以内ぐらいの方であれば、車で自宅から来て、自転車に乗り換えて行くと言うようなことで、国交省では徳島市内で通勤の車移動を減らして渋滞緩和も兼ねて取り組みを進めているところです。山中委員長からも意見をいただいておりますが、駐車場をどこに設けるかということも重要と考えております。来年度そういったことを検討していき、徐々に車から自転車へ乗り換えが進んで行ければと思います。

また、自転車空間の整備で、自転車がどこを通るべきかとか、危ないところもありますので、矢羽の検討も始めたいと思っています。

(山本委員)

自動車から自転車へのモードチェンジをするのはハードルが高いとは思いますが、着実にこう進めるためには道路の安全性や快適性が必要です。さらに、中距離を目指すには、やはり鉄道とかバスなどの公共交通との連携も視野に入れてしっかりと進めていただければと思います。

(山中委員長)

自転車通勤の促進はどこの県もなかなかうまくいかないですね。渋滞対策協議会で調査して、10社ほどヒアリングを行った結果、通勤距離が長いという意見が一番多かったんです。別に、長い距離ではなく、短いのに車で来ている人がいて、自転車で来たいというのを禁止していることがある。そういうところを直して自転車で来たい人が来れる様にしてください。これは各企業の総務が行うような就業規則のような話なんですね。従業員から自転車通勤をしたいという声が上がってもらって総務で考えてもらい、経営者の人には、そうしたら健康経営できますよといったようなアイデアが必要です。

(木下委員)

昨年度は、スポーツ振興財団として会議に参加し、スポーツ施設の管理運営などを実施しておりましたが、昨年4月にスポーツ協会に組織が統合されており、今年度はスポーツ協会として参加させていただきます。昨年から変わったこととして、徳島県スポーツコミッションという組織があり、徳島県のスポーツ振興課とスポーツ協会が共同で事務局をしております。そこで新しく作った助成制度がありまして、県内でスポーツ合宿をすると、一人一泊1,000円助成する制度を県で作り、窓口をスポーツ協会で行っています。スポーツ関連の合宿をするのであれば対象となります。そ

れから、市町村が独自に制度を作っているところもあり、制度として使えるものができたのかなと思っております。宿泊を伴うものですから経済効果も出てきまして、スポーツを切り口とした観光と言えるかも知れませんが、自転車はどうか分かりませんが、プロスポーツのチームが合宿して地域で購入して頂きますと、一泊3,000円というメニューもございますので、使っていただければかなりいい事です。それから市町村にとってもメリットは大きいと思いますので、観光を所管する団体や市町村と連携していきたいと思います。

もう一つは、スポーツ協会の職員の川上唯さんが、2年前の茨城国体でロードレースで優勝しております、幅広い知見を持っておりますので、この会議に参加してもらいたいと思い、紹介させていただきました。

(山中委員長)

スポーツ合宿の種類など決まりはあるのでしょうか。

(木下委員)

今年度からスタートしたところなんですが、やはり大きいスポーツ施設を持っているところに合宿をする傾向がありまして、鳴門市や徳島市などが多いんですが、自転車みたいにスポーツ施設が必要なくても対象となっておりますが、事前に相談していただいた方が良くと思います。

(中西委員)

今回の制度は、サッカーとか野球の合宿を主に対象として作った制度で、自転車は一人のチームで、なかなか難しいですね。

(牛尾委員)

大鳴門橋自転車道の実現に時間がかかるのであれば、サイクルキャビンがすごくよい内容でしたので、まずは、これをできるだけ早く運行したらよいと思います。関西エリアから人を呼び込むためにはこれが一番いいと思います。そして、徳島の良さをどのようにPRするかに関しまして、関西圏の自転車のショップ関係といったところにTラインのマップを置いていただければ、そういう所は人がたくさん集まってつながりがあるので、10人、20人くらいはすぐに集まると思うんです。そういう形で、Tラインのマップを見て、サイクルキャビンがあるんだったら何人かで行こうかとなると思います。それでこつこつとやりながら、最後に大鳴門橋自転車道ができると、人がたくさん来て、うまく運営できるんじゃないかなと感じます。そして、団体で来た時にTラインのあるところに行って、安く泊まれる場所もあるみたいなこともあれば、ものすごくいいんじゃないかと感じました。

(山中委員長)

関西から来てもらう場合には、ちゃんとガイドしてあげて宿泊もしてもらうようなツアーを組んであげたほうが、徳島に来てどこでも走ってくださってというよりはいいと思います。しまなみのように、誰でも分かって走ってるみたいなイメージではありませんので、徳島の魅力をちゃんと伝えるっていう作業をした方がちゃんとお金を使ってくれると思います。

(中西委員)

サイクルキャビンは定期運行ではなく貸切ですよ。一日貸切ったり泊まったとき

とか、料金はどうなるのでしょうか。

(スポーツ振興課)

自転車をたくさん積めますが、大型観光バスと一緒に、借上げ日数や時間、距離で、金額が変わってくるようです。

(山中委員長)

自転車で遊んでる時間が結構長いので、その間、バスはどこにいるのでしょうか。一旦帰って、また次のところに来てくれるという感じでしょうか。

(スポーツ振興課)

しまなみのツアーで海部観光が予定していたのは、まずは尾道までバスで行って全員降ろし、大三島までバスは移動して、まずはそこまでサイクリングしてもらい、リタイアする人はそこでバスに乗ってもらい、今治までサイクリングする人は続けてもらい、今治駅前までバスは移動し、そこで温泉に入って帰ってくるというルート設定でした。

(山中委員長)

19台のサポートツアーといういことで、大変だったと思いますが、うまくビジネスにならないか皆さんに考えてもらいたいです。

(中西委員)

ものすごく可能性はあると思います。大阪まで迎えに行くとなると空荷となってしまう、お客さんを連れてきて送った後、帰りがまた空荷になってしまうので、その大阪と徳島の間を、例えばJRを使えると空荷が少なくてよいです。また、Tラインは1日でおすすめるルートは1箇所ぐらいしか周れないんですが、サイクルキャビンを使うと3ルート周れたりします。池田のルートや吉野川中流域、鳴門や阿南のルートを入れるなど、いろんなパターンが考えられます。サイクリングだけで終わらせてしまうと、空荷が出てしまってお金が高くなるんですね。今、バスの運転手さんは1日8時間しか働けないので、8時間以上となれば2人いるんですよ。それと、距離で借上げ料金が変るというんだったら、公共交通と上手く合わせてやると良いと思います。

(春藤代理)

交通安全母の会としては、交通事故を減らすという観点から計画を進めていただきたいと思います。

■議事(2) 自転車空間の整備促進(矢羽根、自転車マーク)について

(事務局)

【資料2】により説明

(山中委員長)

これは徳島県でまだ検討中ですが、矢羽根という形で自転車が通る場所と方向を示していきまして、ドライバーに知らせる意味もあります。徳島にはまだありませんが、東京にはたくさんありまして、それをローカルルールで行っていくということです。ガイドラインで、外観はどういう風になるかというようなことが書いてあります。この基準は、いわゆる市街地やD I D地区のエリアでネットワーク計画を作った場合に使うんですが、ナショナルサイクルルートなんかでは矢羽根マークを100m間隔で

設置します。

うまくいかないこともあるので、各地域で、間隔や大きさを小さくしたりしています。すごくシックな地域や歴史的な地域では何とか小さくしたいという意見があります。徳島市さんも高校の周辺対策でサイズや形状を検討しています。

(中西委員)

令和4年度から始めるということですが、日常的な利用ということで徳島市さんが実施するのでしょうか。

(事務局)

徳島市の実験結果を踏まえて、徳島県で形状を検討していきますが、基本的には市町村の自転車推進計画に定めるネットワーク計画の路線から選んで設置していくことになると思います。

(中西委員)

道路の幅員に応じてサイズを変えるということですが、矢羽根のマークについて、普通の人はどこを通るべきかわかるのでしょうか。

(事務局)

矢羽根の右肩に外側線みたいな白線を付ける場合もありますが、それも含めて検討していきます。外側線がないところでは自転車がどこを走っていいかわかりませんので、外側線代わりに表示した方が良いのかなとも考えています。

(山中委員長)

徳島市が作成しているネットワークには国道、県道、市道が含まれておりますが、同じルールで実施、そのルール作りを県がするというのでしょうか。

(事務局)

統一的な基本ルールを県で決めておいた方が良くと考えており、矢羽根の設置は各道路管理者が設置するということになります。

(中西委員)

鳴門市の道路は香川に行くようになっていっているので、インバウンドや観光客を徳島に誘導するように、徳島市よりも鳴門市の方を早く設置したほうがよいと思います。

(近藤委員)

矢羽根の色が景観にどう影響するのか気になっていまして、金沢や京都のベンガラは見えにくいのでしょうか。徳島なら藍色にすることかして、それを目的に来てもらうとかは考えられるのでしょうか。

(山中委員長)

福井でもそういう話がありましたが、今は青系でお願いしていて、色を変えてしまうと伝えている意味が変わってしまいます。

(牛尾委員)

矢羽根の上にタイヤが乗った時は滑りやすいのでしょうか。

(山中委員長)

材料にもよりますが、べた塗しているものは比較的大丈夫です。ただし、矢羽根はどうしても厚みが出るので、20m、10m間隔でロードで走るとカクンカクンとなります。ですので、矢羽根の上を走るタイプではなく、ここまで自転車が出てくる可

能性があるという場所をちゃんと明示する一本線のタイプでもよいかもしれません。
これらの内容については、市町村の道路管理者に周知をする必要があると思います。

(事務局)

矢羽根の案については、国や市町村の道路管理者、警察とも協議しながら、令和4年度にまとめたいと思っています。

(中西委員)

観光面を考えるんだったら、徳島にある自転車道の整備を進めたほうがよいと思います。徳島鳴門自転車道が全線使えるように戻った時に、標識を分かりやすく設置する必要があると思います。

(以 上)